

第145回国際研修（矯正保護）

『社会への再統合要因』の強化による犯罪者の効果的な社会復帰」

1. 日程及び参加者

- 平成22年5月12日（水）～6月18日（金）
- 海外参加者9か国12名（うち、オブザーバー2名）
- 国内参加者8名

2. 研修概要

犯罪者の再犯を効果的に防ぐには、その内面に働きかけるだけでなく、「社会への再統合要因（住居の確保、日常生活をこなす能力の付与、就労支援、家計・借金についての指導等）」の強化を図ることが必要である。

本研修では、これら再統合要因を強化するための方策について、現状、課題及び対策を整理し、刑事司法実務家の知識と経験の共有を図ることを目的とした。

主要な検討項目は以下のとおりであった。

【刑事司法手続の各段階における効果的な「社会への再統合要因」強化策】

- 捜査、訴追及び判決前段階のダイヴェーションにおける「再統合要因」強化策
- 判決時における「再統合要因」強化のための措置
- 施設内・社会内矯正処遇における「再統合要因」の強化策
（具体的な検討事項は下記のとおり）
 - ・ 就労支援
 - ・ 学校教育
 - ・ 学校教育以外の基本的技能を伸長させるための処遇
 - ・ 出所後の住居を確保するための処遇
- 「再統合要因」強化を図るための官民連携及びコミュニティ・インボルブメント（犯罪者処遇に地域の社会資源の機能を活用すること）の在り方

3. 客員専門家等

本研修の一環として、アジ研教官による講義のほか、以下の客員専門家・外部講師による講義を行った（敬称略）。

【客員専門家】

- クリス・トロッター オーストラリア・モナシュ大学（社会福祉学）准教授
「犯罪者に対する効果的な指導について」
- スタンレー・トング シンガポール・シンガポール行刑局事業部長
「犯罪者の効果的な改善更生及び社会への再統合について」

- スティーブ・ピッツ 英国・国家犯罪者マネジメントサービス国際関係・対外プログラム室長

『社会への再統合要因』の強化による犯罪者の効果的な社会復帰について」

【外部講師】

- 生島 浩 福島大学大学院人間発達文化研究科教授
「犯罪者等処遇における家族への働きかけー犯罪心理臨床の観点からー」
- 炭谷 茂 社会福祉法人恩賜財団済生会理事長（元環境事務次官）
「ソーシャルインクルージョンと犯罪者の社会復帰」
- 田島 良昭 社会福祉法人南高愛隣会理事長
「福祉の支援が必要な矯正施設等を退所した高齢・障害者の地域生活支援の課題ー地域生活定着支援センターの役割を中心としてー」
- 藤本 哲也 中央大学法学部教授
「犯罪者の社会統合要因強化の方策について」
- 山下 史雄 警視庁生活安全部長
「東京都内における万引きの現状と防止対策について～『規範意識の向上』と『地域社会の絆づくり』を目指して」

ほか

以 上